

石田 芳生 議員

命の大切さ、自らの命は
自ら守るという教育

石田 通園や通学路での悲惨な事故が全国的に発生しているが、学校園での交通安全指導はどうなっているのか。

教育長 交通安全指導は学年に応じて計画的に行っている。重大事故が発生した際には、タイムリーに事故原因などを指導している。最終的には自分の命は自分で守ることをしっかり理解し実行できるようにするためにやっている。

通学路に関する要望への対応

石田 通学路の危険箇所改修の要望への対応はできているのか。
土木部長 危険性や緊急性を勘案しながら順次対応している。職員

通園通学時の安全の確保

危険な通学路への
スクールバスの導入

できることはすぐに対応している。

石田 危険箇所改修に期間を要すると分かっている場合には、公共交通機関の活用も考えるべきではないのか。

教育長 遠距離通学となる場合には、公共交通機関の利用については、補助制度を設けているが利用者は少ない。スクールバスの新たな導入は難しい。非常に危険性が高まっていてどうしてもというときには考えられるかもしれない。



川上 修一 議員

県道新見川上線について

川上 県道新見川上線について、県とどこまで協議ができていますか。

市長 県道新見川上線は非常に重要な路線であると認識している。現在は、県が交渉にあたっているが、今のところ県と事業所との間で協議が進められている。市としては、県事業ではあるが協力できることは最大限の協力をしていきたい。

新規就農者の
定住施策について

川上 新規就農者に対して、他の自治体にはない魅力ある政策はあるのか。

産業経済部長 新規就農者に対し

県道新見川上線の協議は 進んでいるのか

農業機械の補助など支援の強化や、農協や農業普及指導センターと連携してブドウ、トマト、桃、アスパラガスの栽培における基礎的な技術の習得を目的としたスクールの開催を行っている。

また本市の特産物であるブドウ、トマトは高収益な作物で、本市の気候や土地にも合っており、今後もしっかりアピールしていきたい。

川上 新規就農者の農業を維持するため、定住対策はどう考えているのか。

市長 高梁市の基幹産業は農業であり、新規就農者への定住は、新しい施策を含め、今相当な形で支援策を用意している。

今後も一人一人の声を聞き、寄り添う姿勢に変わりはない。

石部 誠 議員

国保税のあり方について

石部 本来、不納欠損は払いたくても払えない状況の積み重ねの中で、やむを得ず徴収ができずに欠損とされる。

令和2年度では、その欠損のうち吉備国際大学の学生が人数で5割を超え、金額では3割を超えている。また、この欠損となった額は他の国保加入者が負担しなくてはならず問題と考えるが。

副市長 ことさら学生、また外国の方を中心に議論を進めるのが、正しいやり方かどうかというのは疑義を覚える。

日本人でも納税意識が根づかない年齢であり、外国の国情の違いに思いをはせる必要がある。その上で納税意識をはかる努力は市にあり、大学との連携も必要があると考えます。

移動投票所の開設を

5億円の基金追加者が積み立てたもの、引き下げに使うべきではないのか。

健康福祉部長 今後どの程度の基金が必要か検討している。

電気自動車充電施設の増設を

石部 市内の電気自動車充電施設が市役所駐車場だけになったが、増設が必要ではないのか。

市民生活部長 国や市も電気自動車の導入促進をしており、その普及に見合った充電設備は必要であると考えている。

選挙の投票機会を増やして

石部 選挙の投票機会を増やすために、他市でも行っている移動投票所自動車を導入したらどうか。

市民生活部長 公正な選挙の維持、人材の確保等を踏まえながら、検討してまいりたい。

森上 昌生 議員

山田方谷の大河ドラマ化の可能性は

森上 山田方谷の知名度は全国的に高くなく、またその人生もあまりドラマチックではないが、ドラマ化の可能性はどの程度か。

政策監 10年前からドラマ化の実現に向けた活動が始まり、全国百万人署名を達成しグッズ等の制作をはじめ、3年後のドラマ化のPRに務めている。

実現の可能性はNHKの関係者のみぞ知るところだが、徐々に知名度も上がってきたし、主人公の現代的意義からも、山田方谷は、今の社会にふさわしい人物であると考えられる。また百万人署名の重みも感じてもらえたと考えている。

森上 ドラマ化が実現した場合の経済効果は。
政策監 過去の大河ドラマの例か

高梁の観光施策について問う

ら見て、県単位で100億円から200億円といわれるが、実際の数字は試算していない。しかしながら経済効果だけでなく、山田方谷の知名度を高めるには有効な手段と考える。

カムカムエヴリバディの活用

森上 NHKの朝ドラ「カムカムエヴリバディ」は、高梁市津川町出身の故平川唯一氏をモチーフにしたドラマだが、効果的な活用がなされているのか。山田方谷の大河ドラマは絵に描いた餅となるかもしれないが、こちらは現実の餅ではないのか。

産業経済部長 津川地域まちづくり推進協議会や、NHKとはポスターチラシなどの制作や巡回展の開催などで協力連携している。平川氏と高梁市のつながりの説明看板の設置も検討していく。

石田 芳生 議員

命の大切さ、自らの命は
自ら守るという教育

石田 通園や通学路での悲惨な事故が全国的に発生しているが、学校園での交通安全指導はどうなっているのか。

教育長 交通安全指導は学年に応じて計画的に行っている。重大事故が発生した際には、タイムリーに事故原因などを指導している。最終的には自分の命は自分で守ることをしっかり理解し実行できるようにするためにやっている。

通学路に関する要望への対応

石田 通学路の危険箇所改修の要望への対応はできているのか。
土木部長 危険性や緊急性を勘案しながら順次対応している。職員

通園通学時の安全の確保

危険な通学路への
スクールバスの導入

できることはすぐに対応している。

石田 危険箇所改修に期間を要すると分かっている場合には、公共交通機関の活用も考えるべきではないのか。

教育長 遠距離通学となる場合には、公共交通機関の利用については、補助制度を設けているが利用者は少ない。スクールバスの新たな導入は難しい。非常に危険性が高まっていてどうしてもというときには考えられるかもしれない。

